



佐伯河川国道事務所 ホットニュース

佐伯河川国道事務所ホームページ
<http://www.qsr.mlit.go.jp/saiki/>

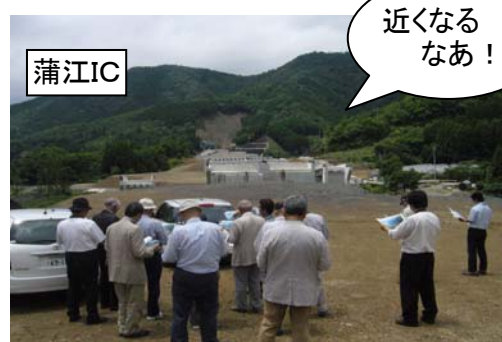
佐伯市東地区自治委員会の皆さんが 研修会(現場視察)に来られました!

平成22年6月14日(月)、佐伯市東地区自治委員会(佐伯東小学校校区)会長以下12名の皆さんが東九州道「佐伯～県境間」の建設工事現場視察に来られました。(東九州自動車道:大越トンネル、蒲江IC)
 一行は、現場事務所にて、ビデオや模型を用いたトンネルNATM工法の説明を熱心に聞いた後、トンネル坑内の遮水シート設置地点まで行き、折り返し、坑外に設けられている環境に配慮した発破作業時に用いる防音扉、夜間施工時のベルトコンベヤー及び濁水処理施設等を視察されました。
 また、蒲江ICの現場視察では完成予想図と現況を見比べ、「海が見え景色の良いところや」、「早期の完成が楽しみ」、「佐伯ICから15分位で来られる様になるなあ」等の感想をいただきました。
 現場視察終了後、自治委員会会長さんより、「お陰で良い研修会が出来ました。総会時に本日の研修の意見を集約し、今後の参考になる意見を寄せたい」との御言葉をいただきました。



ドリルジャンボは発破孔の掘削やロックボルト設置時に用います。

模型



蒲江IC

近くなるなあ!



濁水処理施設

処理水はメダカが飼育出来る程度まで浄化します。



記念撮影!

発行及び問い合わせ先



国土交通省九州地方整備局

佐伯河川国道事務所 工務課

〒876-0813 大分県佐伯市長島町4丁目14-14

TEL : 0972-22-1880

FAX : 0972-23-2726

国道57号(県境付近)と番匠川(番匠大橋付近)のライブ映像が見られます

URL ⇒ <http://www.qsr.mlit.go.jp/saiki/>



佐伯河川国道事務所

〒876-0813
 大分県佐伯市長島町4丁目14-14
 ☎0972-22-1880(代)



前田建設工業株式会社九州支店
大越トンネル作業所従業員一同様

区長会会長 児玉正二

22年6月14日 東九州自動車道佐伯一蒲江間大越トンネル工事現場及び、蒲江森崎インター工事現場を区長会の視察研修を実施しました。まず、驚いたことは現場事務所員の皆様の出迎えを受け 工事の施工方法を模型を使って分かりやすく、親切丁寧に各種建設機械の名称、N A T M, 工法の工程等の説明を受け、トンネル内を見学 浅学の私には目から、ウロコ、が落ちた思いだった。豊後土工トンネル工事、粉塵、塵肺患者、といったイメージは、もはや遠い過去の話となった。整理整頓された現場、空気清浄装置、最先端で使用された汚水をパイプで外にだし、浄化され、またトンネル内に送り返され再利用される、トンネル入り口の二重扉、爆破による音が、外に出ないように厳重にした装置、環境を整え働く者の健康と、労災事故の絶滅を願い、関係各位の努力を確認、東校区区長会の大越トンネル、及び蒲江森崎インター視察、見学研修が意義ある研修だった事を記録に残したい。

最後に、前田建設の皆様と 国土交通省九州地方整備局、佐伯河川国道事務所、工務課建設専門官 八木 健二様 中心よりお礼を申し上げます。

佐伯東地区区長会研修会

東九州自動車道建設現場見学記

文責: 加藤隆司

6月14日月曜日、佐伯東地区区長会は国土交通省佐伯河川国道事務所の職員案内で、建設が進む東九州自動車道の大越トンネル、蒲江ICの建設現場を視察研修した。

一行は9時に市役所駐車場を出発し、最初に前田建設工業(株)が掘削中の大越トンネルの現場に着き、現場事務所で同国道事務所職員から東九州自動車道の概要や進捗状況の説明を受けた。次いで同社職員の模型やビデオを使ってのトンネル工事の作業手順などの説明を聞いた。それから、実際にトンネル工事現場の先端まで入り、実際の作業の様子や使っている大型重機などを見学し、トンネルの坑口に設けられている汚水の再生プラントで実際に水が状映かされている様子を見て驚いていた。また、説明中を受けた区長は、少しでも疑問に感じたこと

大越トンネルは、同市岸河内地区の大越入り口と同市青山の棚野を結ぶ延長1223m、幅員12.0m、内空断面積90.7m²。コンクリート:約16,500m³、鋼材:約530t。青山側からの片側掘削。人家に近いこともあり坑口の防音壁も普通は2枚のところ、もう1枚設け3重の防音壁にしている。また、坑口から約110mほどは機械掘で進み、そこから発破を使ったNATM工法での掘削を計画している。平成24年3月末完成を目指し工事が進んでいる。



大越トンネルの見学を終えた一行は、バスで蒲江IC建設予定地に移動。現地で事務所の職員から説明を受けると、口々に「一日でも早く完成して欲しい」と感想の声が聞こえていた。



DATE 2010. 6. 14

国土交通省九州地方整備局
佐伯河川国道事務所 様

佐伯市自治委員
臼坪 区長

中西 弘道

「6月14日(月) 東九州自動車道佐伯-蒲江視察研修感想文

本日、佐伯東地区区長会12名の区長の1人として東九州道佐伯-蒲江間20kmの大越トンネル工事と蒲江インター工事の現場視察見学会に参加出来たことは、私にとって大変大きな喜びとすばらしい感動をいただくことが出来、心より感謝申し上げます。

まず大越トンネル工事現場事務所に着いた時、前田建設工業(株)の工事技術者多数の方々の出迎えを受け、工事の説明及びトンネル施工方法の紹介にあたり、プロジェクトによるNATM工法で使用のホイルシールドや吹付けロボット、ホイルローラー、重カタンブ、NATM工法の作業順序を映像と模型と図面で大変わかりやすく、丁寧に削孔から発破、スリ処理、支保工、吹付けコンクリート、ロックボルト、防水シート、コンクリート覆工にいたるまで説明して下さい、トンネルの模型やセメントの型枠模型を作って具体的に説明して下さいとは、予想もしていなかった、大変感動し、さすがは、スーパーセネコVの前田建設工業(株)だと感心いたしました。そして実際の施工現場見学の際は、ヘルメットは必ず、長靴、手袋、防塵マスク、安全蛍光テープで準備下り、こまめに徹底されているとは、ほんとに感心いたしました。トンネルの中は大変広く、ゴミ一つなく、現場環境の安全安心と第一として、空気清浄装置、トンネル内の汚れ水を排水管で外部の排水浄化装置まで送り、金魚が生きていけるおきれいな水まで処理して流しているとのこと、又、発破をかける時は、トンネルの入口をコンクリートの厚い扉を締め、音が外にたれぬようにしていると聞き、トンネル工事=粉塵=珪肺病というイメージを持っていた私は、驚き、こまめに達人の技術力と企業姿勢に感動をいたしました。時代は大きく変わっている、こまめに周りの当りに拝見することが出来、心より感謝申し上げます。本当にすごいなあと思いましたが、そこで現場見学の最後に本日の記念撮影でいらっしゃいます、その上お土産までいただきました、お土産一つも用意していただくまで深く反省し、お詫言申し上げます。

本当にすばらしい感動をいただきました。前田建設工業(株)の皆様方には申すまでもなく、この視察見学会にご尽力下さいました国土交通省九州地方整備局佐伯河川国道事務所工務課 八木 寛二 建設専任官様に心よりお礼申し上げます。本当にありがとうございます。

トンネル工事を見学して

前田建設と工事関係者の皆様へ

先日6月14日佐伯市東地区区長会にて高速道路建設のを試みました。
現在進んでいる、大越えトンネル・蒲江インターについて勉強してまいりました。

第一に高速道路の必要性については、高速道路は全部が繋がらないと役には立たない。流通のスピードアップに欠かせないものである。

第2に大分県南は平地が少なく山ばかりでトンネルからトンネルと難工事の中大越えトンネルを見学させてもらいました。

昔のトンネル工事は、大分県南の人が多く工事に携わり、振動病・脛肺の人が多く大変苦しんでいる。

映画「黒部の太陽」を見てトンネル工事には崩落事故・水による事故の凄さを見せられました。また安曇野トンネルの温水噴出事故等本当に危険が多い工事。現在トンネル工事の近代化された工法で掘り進められている、振動病・脛肺にならないように健康面・環境整備された工法で掘り進んだ順に美しく出来あがっている。又地域に気を使い汚染された水は浄化され自然に返す心使い（以前は垂れ流しで公害をまき散らしていたと思われる）前田建設さんの工事を見て道路は必要です、皆様に事故がないように願いしつつ言葉は足りませんが見学のお礼を申し上げます。

佐伯東地区区長会 田の浦区長 伊藤絃一

東九卅自動車道

佐伯
蒲江視察研修

去る六月十四日(月)

佐伯東地区区長会は

東九卅自動車道 佐伯―蒲江視察研

修を行ないました。

午前九時 市役所をお発したマイクワバス

は、九時半前には最初の目的地である

大越トンネル新設工事現場に到着し、事

務所で工事状況について説明を受けました。

国土交通省九卅地方整備局佐伯河川国道

事務所及び前田建設工業㈱九卅支店の

現地職員の方々のパンフレットや模型を使っ

た解り容易い説明は、これまでメディアの映像で

想像するしかなかった工事の手順や困難さを

再認識するに充分でありました。

説明の後、実際にトンネルの中に入りまし

たが、奥に進むにつれ、作業工程をさかの

より、トンネルの完成する過程を理解する
事が出来たと思います。

又、送風管の設置、防塵マスク、防音扉、
湧水の処理等、衛生・環境に配慮する事は、
避ける事のない企業としての責任として大きな
比重を占めている事も感じました。

トンネルの視察を終えて次の目的地である新
江インター建設現場へ向かいました。

ミニでも現況図、完成予想図を比較しながら
説明を受け、変りゆく佐伯の将来への思いを
馳せ、十一時半視察は終了しました。

東九州自動車道は、地域の経済・文化の発
展、交流を担う基幹道路として永く切望
されてきた道路です。早期開通の実現
と作業に携わる関係者の安全を

お祈りします。

最後に、貴重な時間を割き、温かく
 対応して戴いた皆様へ感謝！
 お礼申し上げます。

西中五長

宮崎幸一郎